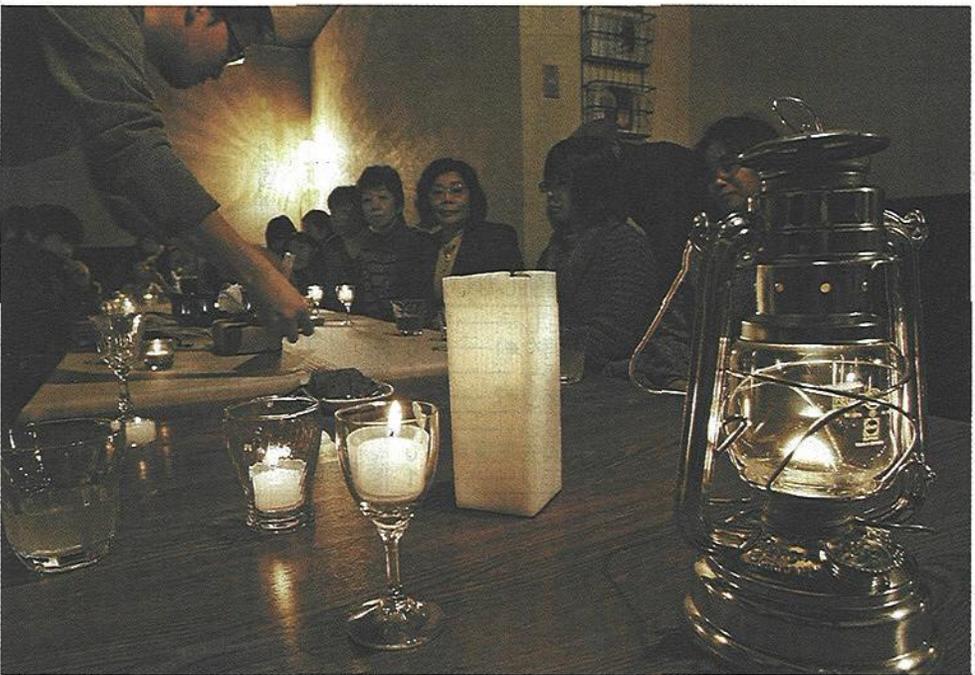


広島に投下された原爆の残り火「平和の火」を囲むキャンドルナイトが今年も冬至の22日に合わせて札幌市内各所で催されている。21日夜には東区のコミュニティーハウス「にはばハウス」に親子連れら30人が集まり、ろうそくの火を見つめながら、平和の大切さをかみしめた。

(伊東由衣)

「原爆の火」囲み 語り継ぐ戦争



原爆の残り火「平和の火」を囲む来場者

札幌でキャンドルナイト 平和の大切さ実感

平和の火は、広島県で兵役に就いていた故山本達雄さんが原爆の残り火を故郷の福岡県星野村(現八女市)に持ち帰り、現在も同市内で保存されている。キャンドルナイトは夏至と冬至に合わせて全国各地で行われている。

21日の催しは、3年前、北海道までの平和の火列島リレーにもかかわった市民団体「チームアース・デイ北海道」代表で同ハウス主宰の矢内俊光さん(38)が、多くの人に知ってほしいと企画した。

矢内さんは「残り火は、恨みの火であると同時に、平和を願う火」と紹介。福岡から札幌に運ばれてきたランプの火が、次々とキャンドルにもされ、残り火保存の経緯をつづった絵本「原爆の火」の朗読も行われた。

来場者は「原爆の火が残っていたなんて知らなかった」などと話し、じっと聞き入っていた。